

令和 2 年度第 1 回

香美市総合教育会議議事録

日時 令和 2 年 7 月 22 日（水）

午前 9 時 30 分 開会

場所 香美市役所 3 階会議室 2

令和２年度第１回香美市総合教育会議

日時 令和２年７月２２日
午前９時３０分から
場所 香美市役所本庁
３階会議室２

次 第

１．開会

市長あいさつ

２．議題

- （１）物部町保育園及び小学校、中学校等活性化について
- （２）片地小学校特認校制度導入の検討について
- （３）ＩＣＴ教育について（ＧＩＧＡスクール構想）

３．閉会

川田総務課長 おはようございます。定刻になりましたので、令和2年度第1回香美市総合教育会議を開会いたします。私は本日の進行を務めさせていただきます総務課長の川田です。よろしくお願いします。

それでは、開会に当たりまして市長よりご挨拶を申し上げます。

法光院市長 皆さん、おはようございます。大変お忙しい中を総合教育会議にご出席いただきましてまことにありがとうございます。

新型コロナウイルスの感染につきましては、春から急に広がるということになりまして、県内におきましても感染者数が、増加状況となり、予防上やむなく、小中学校につきましては休業というような措置をとり、子どもたちには大変な思いをさせました。また、先生方においても、学校の運営に対して大変ご苦勞なされてきたというような状況でございます。このまま終息へという期待もありましたけれども、今また再び感染拡大というような状況になってきておりまして、今後が大変心配されるというところでございます。

こうした中でコロナに端を発して、新しい暮らしのスタイルでありますとか、活動のスタイルということが注目をされております。その中でもテレワークでありますとか、オンラインの会というのが今後進むであろうと言われております。もう既に大学のほうでは、オンライン授業が大きな役割を果たしているような状況でございます。香美市もGIGAスクールを目指して、本年度予算を計上したばかりでありまして、まだ予算を執行していないところでありますけれども、1人1台の端末を早期に実現をしたいというふうに思っております。あわせて、光回線の未整備のところにつきましても、是非この機に整備をしていきたいというふうに思っております。

また、皆様方には、新図書館建設に関しまして、大変ご心配をおかけをいたしておるところでございますけれども、過日教育委員会におきまして、設計の業者の皆さん、そしてCMの皆さんと共に、議会に今後の方向でありますとか、議会の皆さんが疑問に思っておられるようなことにつきまして、丁寧な説明をしてくださりました。結果、議員の皆さんには大変深く理解をいただいたんじゃないかと感じておるところであります。是非皆さんと力を合わせて、一日も早く市民の皆さんの思いを形にしたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いをいたします。

本日は総合教育会議、令和2年度の第1回の会議ということで、ただ今申し上げましたGIGAスクール構想を初め、3件の件につきまして、皆様方にご審議、そしてご意見を賜ろうと考えておりますので、どうか腹藏のないところをお話しいただければと考えておりますので、どうかよろしくお願いをいたします。

以上を申し上げまして、冒頭の挨拶とさせていただきます。

川田総務課長 ありがとうございました。

それでは、本日の会議はお配りしています次第に沿って進めさせていただき
きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

議題は3件ございますので、1件ずつ説明を受けて、それぞれ協議をしてい
だきたいと思います。

まず、議題1番目の物部町保育園及び小学校、中学校等活性化についての説明
をお願いいたします。

時久教育長 議題の中身に入る前に、前段で私のほうから少し経過等について、お話させて
いただきたいと思います。

実は、平成22年、私が丁度教育長に着任させていただいたときなんですけれ
ど、香美市の適正規模検討委員会から最後の答申をいただくときになっていま
して、着任と同時ぐらいに適正規模検討委員会の答申が出されて、それに基づい
て、適正規模推進計画を作って、佐岡小学校、繁藤小中学校の統合が、すぐ動き
が出たという経過があります。それぞれ片地小、香長小、鏡野中に統合したわけ
なんですけど、その後、統合して片地小も香長小も鏡野中も地域の学校が無くな
ってきたということも地域の方にとっても寂しいことなので、とにかく遠足で
あったりとか、それから、宿泊の学習であったりとか、それから、繁藤なんかだ
ったら慰霊祭だったり、それから、森林公園を活用した学習だったり、地域の人
と交流することだったり、いろんなことを考えてやってきた経過があります。

適正規模検討委員会の答申は、土佐山田町内の学校については、各単級で全部
の学年が揃うというのが最低規模ということを最終的に表に表して、香北町と
物部町については、ここは人口減が考えられるので、土佐山田町と同じ形ではな
くて、ここは減っていても、まあ子どもの数が1校を10人切るようになったら、
それは考えんといかんというようなことで一応表もできています。

そんな中、ただ統合とかを含めて、その後教育委員会のほうで、適正規模につ
いての話は時々出しながら来ているんですけれども、私たちが一致した思いを
持って、教育委員会の最大の方針として当初から取り組んできたことは、教育の
充実をとにかく頑張ろうと、教育の充実をすることで香美市の活性化を進めて
いきたいという思い、それから、教育が充実すれば、人口減少問題を最小限に食
い止めることができるだろうというような仮説も持って、必死になって取り組
んできました。

丁度その当時なんですけど、平成24年、25年の2年間の検討経過を経て、
香美市の教育振興基本計画（10カ年計画）を作りました。これが平成26年か
ら令和5年までの10年計画なんですけど、これを作ったときに自分たちが一
番先に考えたのが、人口問題です。人口が減少する、子どもたちも減る、そのま

まだったら、この下方のグラフが修正できないということもあって、学校教育を知・徳・体、とにかく存分に上げていきたいということと、それから、社会教育の活性化を進めて、香美市へ来たら充実した教育が受けられるし、生涯学習もとても面白いというような、そういう町にして、そういう町だったら住みたいとなるだろうというようなことで、必死になって取り組んできたのがその精神です。ですからこれを作ったときに「活力ある教育から躍動する教育へ」って付けたんですね。ここの思いは、「躍動」、つまり香美市の教育の現実が見えなかったら、人は来てくれないだろうということもあって、願いを込めて作って、当初課題が一杯あった小中学校の教育を中心に、レベルアップを図ってきたという経過があります。それが10年のうちではいろいろ変わってくるので、後期計画を作ろうということで後期の計画をこの10年の半分のところで作りました。令和元年から令和5年まで今進めているところですけども、これを作ったときもやっぱり人口です。

私たちが思ったのは、いろいろあるけど、とにかくこの現状を述べるときに、やっぱり教育が弾むことで町が元気にならないといけないと、町が元気になれば教育もまた弾むということがあって、もう本当に必死になって今進めているということです。このときは躍動する教育っていうのがずっと流れながら、みんなで作ろう、よってたかって教育で作るよということでもとめてきたものです。

その過程では、工科大との連携を進める中で山田高校とも凄く近づいて、市長さんのお陰もあって、山田高校に探究科もできたというような教育の筋道は通ったという経過があって、大変嬉しく思っているところです。

町村合併でできた広域な香美市ですので、それぞれの地域に学校が散らばってあったり、ちょっと接近してある学校もあったりはするんですけど、でもやはり経過を経てきたときに、それぞれの地域にある学校は本当に大事なんだという思いを持っています。で、学ぶこともそうだし繋がることもそうだし、文化の発展の中心となる。施設そのものも大事だし、そこを中心にいろんなことが湧き起こるということが大事だと思うので、そういう気持ちで平成26年度からコミュニティスクールを導入していこうということと、それから地域学校協働本部の設置をして、地域と共にある学校の営みをやりながら、とにかく教育を活性化させて、地域も活性化させてという方向で行こうということで、教育委員会としては、ずっと取り組んできたのです。

今、各小中学校でそういう作り方をしているので、地域の活性化が段々図られるようになってきて、地域の方々が学校施設を活用して、集ってまた文化を起こしてということで、どんどん発展させていこうということが続いています。香美市にとって、この方向が大事だと教育委員会としては思っているのです。

ところが、何しろ物部地域のほうで赤ちゃんが余り産まれない、切羽詰まった

状況になっています。保育園が凄く頑張っているいろんなことをして、とてもいい保育をしてくれているんですけど、とにかく物部地域の保小中学校が本当にいい形で存続をして、そこで素晴らしい教育が行われていく、人口も増えるという形へ持っていきたいということが私たちの切実な願いで、そこが本当に柱になる中身です。

そういうこともあって、以前に物部町の活性化のことについては一度テーマにさせていただいて、こういう話もさせていただいたんですけど、今回はもう本当に切羽詰まってるっていうか、この2年間くらいでどうしても、もう一遍盛り上げていきたいという思いを持っているので、今日の議題として出させていただいたということです。

今、活性化検討委員会を行っているのでその中身もお聞きをいただいて、またみんなで、どうすれば活性化が図れるかということで、話し合いをさせていただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

川田総務課長

ありがとうございます。

それでは、説明をお願いします。

公文教育振興課長

それでは、事務局であります私のほうから少し説明をさせていただきますが、その前に、資料としまして事前に送付させていただきましたものの確認をさせていただきたいと思いますが、検討委員会についてという1枚ものの裏表の分と、それから、令和元年度の第1回の分の会次第と、それから資料をクリップ止めにさせていただいています。次に、令和2年度の第1回の分の会次第と資料を送付させていただいております。それと、加えて今日、検討委員さんの名簿と要綱を追加でお配りさせていただいておりますが、お手元にごございますでしょうか。

それでは、説明をさせていただきます。

物部町保育園及び小学校、中学校等活性化検討委員会、これから「検討委員会」と申しますが、物部町の保・小・中学校の教育上の諸問題の解決や活性化、地域と連携しての物部地域の活性化等を検討し、その成果を教育委員会に報告することを目的として、令和元年度に設置及び委員の委嘱を行いました。

令和元年度は、3回の会議を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の関係で2回の実施となりました。

令和2年度は、令和2年6月26日木曜日に第1回検討委員会を開催し、第2回は7月20日月曜日に開催いたしました。お手元の資料をお送りしています時点では予定となっておりますが、当日の協議では、令和元年度と合わせて3回目の協議となり、各委員から率直で活発なご発言も多く、有意義な会議となり

ました。次回は、9月中旬から下旬頃に大柵保育園・小学校・中学校を実際に見学し、給食も食べていただき、今後の協議に役立てていただくよう計画しております。

今年度は、合計7回の会議を予定しており、令和3年2月を目途に、今までの協議の中間まとめができればという計画で進めております。なお、大柵保・小・中学校運営協議会の会議の際には、検討委員会の検討状況等も報告し、情報共有をするなど、物部町の他組織等とも連携を図りながら進めていきたいと考えております。

令和2年度第1回までの検討委員会での協議につきましては、その後の裏面等にありますので、見ておいていただきたいと思います。

また、先ほど言いましたように別添の資料として会次第等を付けさせていただいております。

事務局からの説明は以上です。

川田総務課長 以上で、ちょっと簡単な説明になりましたが説明が終わりました。事前に資料をお送りしているということで、一通り目を通していただいていると思いますので、これから自由に皆様のご意見を出してもらえたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

どんなことでも構いませんので、ご質問でも何でも構いませんのでお願いします。

時久教育長 委員会の雰囲気なんですけど、去年1回目を開いたときはまず自由に意見を言っていたくということで、これは心配もあれば、やってみたいこともあれば、いろんなご意見をいただきました。その続きをどんどんと思っていたら、コロナでバサっとう切れたので、仕切り直しで今年になってやっと始めたということです。今年度の1回目はちょっと飛んだので、また一番最初と同じように自由に委員さん方のご意見を言っていたいたんですけれども、その期間に物部のコミュニティスクールのほうで熟議を開いてくださって、地域の方々がいろんな話を出してくれてたんですね。途中でこんなようなことがあったと思いますが、前はここに書いてあるような、例えば上のほうだったら何か自然を利用したイベントをもっと増やしたらどうかとか、お年寄りに優しい町にしたらどうかとかいっぱい出てるんですけど、こういう意見が前は無かったんです。で、この熟議で初めて、物部でできることが何かありやしないかということがまず出てきたというのは大きなことだと思います。こういうのを紹介したりするのが1回目の会だったんですけど、それも前と似たような感じ。20日に2回目を開いた時には、結局いろいろ考えても、どこまでするがですかみたいなこと

が、その途中で会じゃないときに言われていたのですが、この前会をしたときに、宮地委員さんのほうが全体をまとめて委員長でやってくださっているの、いろいろ聞き出してくださったときに、今までとちょっと雰囲気が違って、いろいろやれそうなこととか、考えていくこととか、それから逆に課題が出てきました。だから少し雰囲気が、深まりつつあるっていうところに至っているところです。この後、計画にもありますように、保・小・中を一度見せてもらって、それからまた突っ込んだ話をしていきたいと思うので、話し合いはこれから徐々に核心を得たものになっていくとは思っています。まあ感想的なことです。

宮地委員

委員長ということで。

とにかく内容が深刻なだけに、できるだけ深刻にならないように努めまして、自由闊達に言えるようにということで、雰囲気を随分配慮しながら、明るい雰囲気で会を進めております。その中で教育長も言われましたけれども、最初はなかなか意見が出てこなかったんです。実は熟議のときも、公文課長と2人で大栃中へ行きました。行ってその熟議に参加させていただいて、ちょっといろいろあおりながら、もっと言うてみい、言うてみいって大分出させた中でこういう結論になったわけですけども。それも基にしながらもうちょっと、どちらかという委員の中には地元の方が半分以上おりますので、やはり学校を活性化させていくためには、あるいは町を活性化させていくためには、やっぱり地元の方がしっかり腹に入れていただいて、中心になって動いていただかないとこれは活性化になりませんので、できるだけ地元の方に意見を言っていていただいて、進めていきたいと言っているんですが、むしろ大学の先生とか学識経験者の方々には、的確にアドバイスをしていただけますので、それは非常に有難いと思うんですけど、地元がしっかりやっぱり議論をして、結論を出していくようなやり方で運営をしていきたいなと思っています。

それで、具体的に前回やったときにも、ちょっとやっぱり先ほど教育長も言いましたが、かなりひとつきぼりになってきました。それは若いPTAの会長さんから話が出たんですが、ある意味世代間によって、やっぱり非常に意識の強い方とそうではない方もいるんだと、年齢的に言うとも40代ぐらいですかね、の後半ぐらいまでの間の方々が、地元に対しての意識がちょっと低いんじゃないかと、子どもがいなくなったらよそへ行くとかってというようなこともあると、その辺りが課題になるということが出てきました。その辺りについてはやっぱり、地元のほうで繋がりをもっと繋げていくような必要があろうということで、コミュニティスクールなんかも利用していただきたいというお話もさせていただいたところです。

やっぱり地域を盛り立てていくためには、みんなが同じ方向になってもらわ

んといけませんので、こういう会を通していろいろな仕掛けていく必要があるんじゃないかと思います。自分たちに何ができるのかというところの話をしていかないと、いかんと思いますので。

川田総務課長　　小松委員さん、地元ですけど、何かご質問とかご意見とかございますでしょうか。

小松委員　　実はその減少とか地域の限界とかもあるんですけども、教育論については、特に教育委員会が中心になって進めていかなければならないところもあるわけです。ただ、財政的な面を必要をする場合には、どうしても市長の裁量をお願いしなきゃいかんところも出て来ると思いますので、そういうところが一つはあります。

あと、非常にまた、小さいことを言うと代替バスになって、大栃美良布間がちょっと不自由になったりもしてるんです。学生の通学のために、やっぱり時刻表の連絡関係は考えて設定をしていただきたいと。例えば中学校の部活が無い日などは、バスが4時ごろに連絡がありましたのに、5時の便まで待たないかんとかいう実態もあります。そこら辺を何か考えてほしいなと。

あと今丁度、集落活動センターの検討もされているわけで、それとこの学校の関係の、あるところではリンクしながら進めていって、地域の活性化に繋げていけるような事業になっていくといいと思っているんですよ、集落活動センターも。今、丁度立会が始まった頃なんですけど、私個人的には合併してから初めて、物部のことを中心に考えてテーマでやってるのが今やないかと、思ってるんです、集中的に考えて。

地元ももちろん頑張らなきゃいけませんけど、あと10年したら、今元気な人もそれほど動けなくなりますので、本当に今が大事な時やと私は思ってます。いろんな面の施策にしろアイデアにしろ、今考えて今やらないと、個人的に後はもう無いなというふうな危惧をしているところです。

いろいろまた知恵もいただいて、地域の一人として、活性化へ向けて頑張っていきたいと思いますので、その辺はよろしくお願いします。

市長は地域のことは随分ご存知でしょうから、よくお分かりでしょうから。

法光院市長　　まあ最初に教育長さんが言われたように、教育と地域とをしっかりと考えていかないと難しいと、人口が減っている中でというお話で、これはもう香美市全体的話でありますけれども、今とりわけ物部のことを考えると、教育だけ取り上げて考えていくというのは、盛り上げてやっていこうってしてもなかなか難しいところがある、全体がやっぱり上がっていかなきゃいけないということだと思います。

うんですね。

今お話があったように、集落活動センターのお話があります。実はこれはもうね、合併のときからずっとやってきてるんですよ。中心にやってたのは、今田副市長が担当だったときから、いろいろと話をしていたけど、やろうっていう機運はできるんだけどなかなかできないっていう状況で、今も苦勞して話し合いをしてるみたいですけども、今までと違ってちょっと形ができたというところが今までとはちょっと違うところだと思うんで。

ですから、皆さんは何かしなきゃいかんと思って立ち上がろうとするんだけど、さて自分でこうやらなきゃいけないことは何だろうと考えたときに、少しやり切れるかなという思いもあって、もう今はできるだろうけど10年先には無いんじゃないかという思いがずっと、少し重たく感じてしまって、なかなかできないなというところがあるんじゃないかと思うんですね。だから本当に、最初に教育長の話があったように、これは本当に深刻な話だと思うんです。

ただ、これは物部だけが深刻じゃなくて、やがてそういうところがたくさん出てくるということを考えておかないといけないんで、我々は教育についても、いい方向でやってきたと思うんですよ、コミュニティスクールを立ち上げてやってくる、そしてみんな地域の人が立ち上がってきたということも大変いいことだとは思っています。

で、教育を考えるときに、教育の中で競争が主になると、どうしても勝つ人と負ける人がいるということが出てくる。社会のその地域の経済についても、競争の原理が働いていて、大きなところが勝って小さいところが負けてしまう、企業にしてもそう。そして、社会の風潮として、やっぱり収入をたくさんあげた人が勝ち組であって、そうでない人が負け組になってるというところがあって、競争の社会だけでやっていて、少し歪んだ状況も出てきてると思うんですね。そういう中で人とお互いに助け合うということ、これが本当に実現できるかどうかというのは、私たちの今の時代の大きな大きな課題だと思います。そういう中で、日本だけでなく世界中にいろんな工夫がされてきて、連帯をする必要があるんだということで、様々な人の連帯が起こってきたり、地域で新しい地域の通貨を使うとか、あるいは時間の均衡を作るとかいうことをして、地域が支え合うような、お互いが私たちは役に立つ人間なんだということを感じられるような社会を作ろうとする、そういう努力もある。我々はやっぱり子どもたちにそういう、今やっている探究なんかもそうですけども、本当に社会に出て生き生きと元気にやっていけるような人を育てていこうとする、そのやっていることは本当に益々正しいんだと、こういう方向なんだということを確認できるわけですけども、それが今の状況の地域を見たときに、何でもっとこれが早くやれなかったのかね、そういう思いですよ。先生方もそれは強く感じておられると思う

んですね。人が人を認め合う、多様性を認め合うような社会になっていかなきゃいけないんだということを、もっともっと我々は早く、これをやってきたはずなんですけども、本当にそれ以上に競争、競争が激しくされてきた中で、こんなふうな状況が起こっているんだということで、だからそこと向き合って、地域をどうしていくかということを考えていかないと、ただ現状の厳しいところを見てどうしようかと思ってもなかなか力が出てこないというところがあるので、これからの課題というのは、みんながこれからそういう課題を抱えていくわけだから、何でもやれることがあったらやりたいと思ってます。

この間知事さんともお話をさせていただいたんですけども、私はこれまで多くの企業の誘致が大事だと思ってきたんですけど、なかなかこれできないところなので、それでサテライトオフィスを使っていない商店街とか、でもそういう商店街だけではなくに、物部のようなところに使っていない施設があるんですね、上がってきたのにウェブスキーの管理棟なんてある。こんなものは、見ようによっては湖のそばで凄いいい環境で、そんなところで仕事したいという人が出て来る可能性があるんで、今お話を最初にしたように、テレワークだと、離れてオンラインで仕事ができるような時代になってきたんで、そういうところにも来ていただけるようなことがあるんじゃないかなろうかと思っておるんで、是非知事にはそういう方向でやることを応援してくださいというお願いをしてきたところです。ですから、今までにない部分の人たちともこれから繋がって行って、魅力のある地域だよってということを知っていただきたいなと思っているところです。

それだけで幕が開かれているわけではないけども、できることを全部やろうというのが今の状況だと思いますので。

宮地委員

それに関連して、物部だけでなくその次出てきますが、特認校制度の問題にも出てくるんですが共通した課題ではあるように思うんですけど、この物部に絞って言えば、もうこの議論はラストチャンスじゃないかと私は思っています。ですから、ここでもう本当にこのチャンスを生かして、なんかアクションを起こしていかないと、おそらくもう学校も無くなるんじゃないかと、そんな危惧を抱いておりまして、それならこのラストチャンスを利用して、今市長さんがおっしゃったようなことも含めて、人を呼びおこすっていう、それがいわゆる学校教育で人を呼べるっていう方法が無いかということで、みんな議論しているんです。結論も今議論の最中ですから出てこないんですが、何か学校の活性化ですから、物部の小中学校へ行けば、素晴らしい教育ができるんだと、だから全国どこ行っても十分に力のつくような、そんなよそには無い魅力ある学校づくり、もちろんその中には学力もありますし、そこで勉強すれば高等学校へ行く、大学へ行く、

どこの大学へも行けるよっていうそんな学力をつけながら、あるいは先ほど言われました探究も含めて生きる力ですよ、そういったものをしっかり子どもたちに、その自然の中で培っていくと、そういう、まだ分かりませんが凄く魅力のある学校をつくって、いわゆる大都会から、もっと自然回帰でどんどんどんどん入ってくるとか、そういうふうな教育を使っているものができればなというふうには思っています。

それから、仕事なんですけれども、何とか仕事が無いとなかなか来てくれませんが、じゃあ物部でどうかと言うたら、勿論さっきのテレワークの話もあるんですが、一概に物部で仕事をしなくても、物部に住んでいただく、あるいは仕事は例えば山田です、だから物部から通勤をするという形です。そういうふうなことができればどうかという分もありまして、いずれにしても、きっかけは子どもの教育ですよ、そこへうまく結論を持っていけばどうかと、議長としての思いがあります。

ですから、これもやってみてのことですから、実際に来るにしてもそんなに何人も来なかったから、できなかったということにならないようにはしていかなといけませんけれども、ぎりぎりになってきてますから、やはりここで一つ起爆剤を作っていかないと、いかないんじゃないかとそんな思いがあります。

浜田委員

同じような意見で、今こうやって検討委員会ができたのも、やっぱり物事にはトリガーというか、きっかけがある。工科大が公立化したのも、定員が割れだして、何とかしなくちゃいけないという部分と、地域再生、今は創生になってるんですけど、そういう機運があったからうまいことなれたという部分があるわけで。実際今、検討委員会作って、本来まちづくりであるべきなんです、これは行政も含めた。けど、教育で入ってそこがトリガーになっているということは、教育というのはどうしても国からの制度のもとであるわけですけども、自分たちの問題として取り上げることができる、雇用とかそういう一般の企業活動というのもなかなか難しい面があるんですけど、子どもたちに関しては、皆さんが一致団結して何とかしなくちゃいけないだろうという部分で、うちうちで活発に議論を、そのためには、やっぱり物部町の財産そのものを今全て動員しなくちゃいけない、また外からも入れなくちゃということは、市長に怒られるかもしれませんが、大栃高校の問題、一時、4年ぐらい前でしたかね、放課後児童クラブの関係があったりして、中断したこともあったんですけど、やっぱりここに至っては、あらゆるものを動員してやっていかないと、それと併せて市長が言われたように、今ある財産の中で、例えばダム湖畔でいろいろテレワークができるとか。ほんで、そういうことは、どうしても個人ではなかなか難しいから、集落活動センターなんかも難しい部分が出てくるわけですけど、行政に頼らないか

ん部分、住宅の部分、そういう部分も併せて、教育を中心にしながらやっていた
できれば大変有難いなと思います。

だから、今県も巻き込んだような、大栃高校も含めて検討して、懇願してい
かなくちゃいけないんじゃないかなと思います。

一回、放課後児童クラブを建てるがで、大栃高校の検討をしよう、あんまり
言いにくいところあるんですけど、確かにここに至ってはもうそんなこと言
いよらんと。

西委員

私、繁藤にもと住んでいまして、子どもがわかふじ保育園に通った一番最後の
学年の子どものときで、新改保育園に通ってもらうようになるっていうので話
し合いを何回か行政の方たちとしましたときに、ある程度の人数がいれば保護者
のほうも、少ない人数でもやっていけるって思えば、そこでやってほしいとい
う気持ちはあるんですけど、その人数があまりにも極端に減ってしまうと、ある
程度の人数の中で、集団としての活動の中で子どもを育てたいっていう親の気
持ちはそっちに傾いていってしまってしまうという部分もあって、最後まで1
人でもこっちでやってほしいという意見は私だけで、他の保護者はやっぱり、あ
る程度の人数の中でということで、新改保育園に合併することに最後はなっ
てしまったんですけど、保護者としてもやっぱり、どっかに境目があって人数的な
部分も極端に減って、1人や2人になると、やっぱり友達も限られた人になっ
てしまうという部分も出てくるので、この人口推移とかも見てみると、10年、2
0年経つともう半分ぐらいに減っていってしまうというのも、本当に今何か手
を打たなければ、どんどんどんどんもう減っていく一方なのなかと、凄く危機感
を覚えるので、今はSNSとかもいろいろあるんで、発信の仕方をちょっといろ
いろ見ていけば、全国の人の目に留まるような何かをすると、呼び込むことも可
能なのかなというふうには思います。

宮地委員

自前で人口増はもう無理ですので、そうすると、やっぱりどこからか来ていた
だかんといかん、そうすると高知県内という視野じゃなくて、やっぱり全国の視
野でもって考えていかないと、売りを作っていかなないとなかなか来てくれま
せんので、その辺りの戦略をこの会を通して、作っていけばなあと思ってるん
ですがね。

この間の片地の問題も、自分も片地ですから、結局人なんですよ。

西委員

それと、やる以上はテレワークの関係も、徳島県の神山町とか、やっぱり早く
やって、実際神山町の方なんかも人口は減っていても仕方ないということ
を覚悟した上でやってますからね。けどやっぱり、やっとな国も注目して、いろ

ことを支援しながら、企業も入ってくるような、そこに子どもが着いてくるかどうかは別問題ですけど、やっぱりそういう地域の、先ほど市長が言うたように、全体を高めていくという部分が必要になってるんじゃないかなと思いますけど。

法光院市長 基盤の無いところはやっぱり難しい部分があるので、少なくともどこで暮らしても、同じものが享受できるような環境をまずは作らんといかんと思うんですね。

今、香美市で見ても、光回線が通っておところは、主な道筋と少し入ってるだけで、物部なんかは大栃だけですよね。そういうところについて、やっぱり回線を入れるということ、回線を入れるというのは凄い負担がかかりますけれども、これはもう最後のチャンスだと思ってやらなきゃならないというふうに思ってます。今年の9月には予算を計上させていただいて、できるような形にしたいと思ってますけれども、とても大きなお金が要ると、それから、まだ一部は繋げないというようなことが言われてますので、そういうことのないようにできるだけ、香美市の中でどこに住まわれても、情報については、どこにおっても同じように得られるんだというような形にはしたいなと思ってます。それが教育にもベースになっていくだろうし、仕事をする場合のベースにもなっていくだろうと思いますので。確かに人口はこのままで見るとちょっと厳しい状況があるかもしれませんが、もう一つ先の先を見たときに、そういう環境の中で生活ができて、そういうところで仕事ができるんだったらそっちがいいよねっていう時代が来る可能性もあるので、我々がそこも考えてやっていかなきゃならない、今日の前のことが解決できないからダメなんじゃなくて、我々がいない時代でもよくやってくれたと言ってもらえるのは、よくその時に議論してくれたねと、大変な地域になってきてるところで、いろんな知恵を出したねっていったように、次へ繋ぐことを考えていかなきゃいけない。

浜田委員 やっぱり田舎ほど人材は少ないですよね。実際、検討委員会も我々高齢者の方が多く、どうしても今までのことを発見しながらやっていく。そうすると市長が言われたようなことは、これからの時代ですよね。だから人材というものが、よくするとどうしても飛躍することがなかなか、飛び越えることができないので、できれば今おる人間をそうするのは難しいけども、できれば地域おこし協力隊なんかを活発に使って、別の意見とかそういうのを是非入れていただきたい。国からも支援もあると思うんで、そういう方は、3年間ですけど活発に動かして、いろんな意見を、今の若い方を入れていただくと大変有難いなと思ってます。

宮地委員 光回線は、今市長が大柄をもう少し広げられるという考え…。

法光院市長 もう全て広げたい。全て広げたいと思うんですけども、ちょっとNTTは岡ノ内までという見解で、久保のほうは行くんだけど、岡ノ内のほうはちょっと事情があって広げれないというので、厳しいので、そこがちょっとこれからせめぎ合いで、やるんだったら全部行ってもらわないと、みんなが平等にというか公平に、そういう享受できないところがあるので、行政としてはもうこの際には全て期待し、そういうものがないと今後、例えば観光で呼び寄せたいとか言っても、Wi-Fi環境を作れない、たくさんのが安全を確保する上でも、そういうものはもう必要ですよという時代になってきているので、そこだけできませんでしたみたいな話はなかなかできないんじゃないかと思っているので、かなり無理をしてでもやりたいなと思ってて、その辺りを議会の皆さんも理解をしていただきたいと思っているところですけれども。

宮地委員 前回の検討委員会の時にもちょっとそういう声が出たものですから、やっぱり光回線が無いから非常に不便だという意見が出ましたので、それを。我々でしたら、家のすぐ前にもう線が入ってますからね、もう全然不自由じゃないんですけど、やっぱり無いとやっぱり不便ですよ。

時久教育長 市長さんのさっきのお話、本当に嬉しいなと思って聞いていました。
検討委員会もそうですし、日頃のいろんな会するときなんかにも、光回線のことは出るんですけど、何かもう言ってもなかなかお金もかかるし難しいみたいなことを思って、声が弱まっているところもあったりします。自分たちも検討委員会で検討していくときに、やっぱり仕事は通って行ってということもあるんですけど、物部は特にいい地域で、そこで仕事をしようと思って入ってきている人もいて、そういう方のご意見を聞いても、やっぱり環境が整っていたら、この場所は本当に凄いいんだということを言われているので、これからの地域での検討もこの検討委員会の検討も、可能性を考えながら多分議論されていくと思うんですね。その時に自分たちとしては、子育てをここでしませんかって、こんな素晴らしい地域ですよって、こんな素晴らしい学校なんですよって、子どもは育つし、生活は本当に潤っているし、人はいいいし、そういう地域で一緒に子育てしませんかって、こう打って出たいという気持ちがあるんですね。
その時にやっぱり環境整備のところ、がくっと躓いたりするところがあるので、今のような広い発想があると、非常にみんなが力強く楽しく話せるので、是非にと思います。

あと学校教育は凄く頑張ってくれています。けど、何か他の学校も、香美市の学校は全部特色があって、どこも頑張っているんで、際立ってそこだけが凄いつてなかなかなりにくいんですね。

だから物部の教育っていうのは、あの自然が一杯で、子どもたちが本当に素直に体を使っていろんな学びをするということもあるし、できることは起こせることは一杯あると思うんですね。だからそこへ近づけていくような、物部でしかできんというか、物部だからできるという感じ、そういうことを編みだしていきたいとは思っています。

物部の子どもやき体験をしているかと言ったらそうではなくて、実は昨日、今日、今日の多分今ぐらいまで、別府で5、6年生が宿泊してるんですよ。キャンプ場へ行って、そこで泊まってるという、総合学習の流れの中から行ってるんですけど、結局子どもたちはキャンプもしたことがない、川でそんなに活動したこともない、白髪山へ登りたいって子どもは言ってたけど、白髪山もあんまり登ったことがない。だから、あんなに自然が一杯やきしているかって言ったらそうでもないんで、で、それは良いことですねって、とにかく行って1晩泊まることで、次考えると大体一杯出てくるので、それを積み重ねていながら、なんか僕らの学校はねっていう、面白い学校を子どもたちと一緒に作ったらどうですかというような話で今やり始めているところなんですけど。

なんか何でもできるっていうか、考えたことが形になって、もういろんなことを地域で協力して一緒にできるっていうようなことが大きな特色に多分なりそうなので、いろんなことを編みだしていきたいなとは思っています。

宮地委員

1月の熟議でやったこの中にヒントが一杯ありますので、それを地元の委員さん方はまだ気が付いてないところもありまして、そこをどういうふうに気が付いていくのか。物部はなんちゃあ無いところやき、けんど実は自然が一杯あって、なんちゃあないどころか一杯あるんでというところへ、やっぱりもう行きたいんですね。

そういう、実は地元においてながら地元の素晴らしさがまだ発見できてないというか、余りにも日常的に我々は毎日あるから、そこが何かクリアできればいいかなと思っています。

もう星座が凄いでしょ。ちょっとしたことを視点を変えたら、素晴らしいところばかりですよ。だからとても都会の子どもたちには味わえないところが一杯ありますから、そういった部分を徹底的に売り出して、しっかり学力もつけると同時に、そういった生きる力をしっかり付けていく。それがどうも売り出していきそうには思うんですけど、そのためには地元の方にしっかり気が付いてもらって、やろうってなってくれたら大分違ってくると思います。

法光院市長

物部の村おこしに熱心だった人が、「法光院、物部には無いものは無いがねや」とこう言うんですね。無いものは無いわね、それは。無いものは無い、こう言うてにこにこ笑う、ほんならつまり有るということを言いゆうがかよという感じがしたがじゃけども、見てみたら、よくよく見てみたら、無いものは無い、有るってことなんですね。先生の言われるように、見つけようと思って見始めると、幾らでも見えてきて無いものは無い、そういうふうに言われたので、やっぱり村おこしに熱心な人は、そういう視点で物事を見るんやなと思いましたね。

で、課題の中で40代ぐらいまでの人が、地域への思いというのがちょっと薄いんじゃないかという話をされたんですけども、これは物部もそうですけども、どこもやっぱりそういうところがあると思います。これも僕は、教育や子育てのところに大きく関わってくるんじゃないかと思います。やっぱり競争であおられて競争でやって、競争で勝った人がいい、負けという状況で、だから一生懸命やらんといかんということで、子どもは学校へ行ってやらんといかんとか、それが仕事でしょうみたいな形ですけども、地域との結びつきとか地域との関係、地域でやっぱり自分のいざとか、自分の立ち位置とかいうものを考えないでこれたんじゃないかと思ってて、逆に言うたら、社会に出ると非常に弱い、つながりの弱い人になってしまったんじゃないかと。だから地域にお年寄りがいて、ごみ出しができない人がいると、地域の子どもたちがそれを何とかしたいなという思いを持つような子どもがもしいたとしたら、地域をもっと違った目を見てたんじゃないかなと思うんですよね。いろんな体験をさせて、体験をすることによって見えてくるものが全然違ってくるんじゃないか、それが結果的には大人になっても、自分の見えてくるもの、それから、自分がやらなきゃいけないこと、関わることということに対して、自信を持ってやっていけるんじゃないかなと思うんですよね。

だけでも教えられてきたことは、やっぱり良い子で勉強するのが中心であつたんじゃないかなと、もっともっと教えたらいいことが一杯あつたんじゃないかなというように思います。それは自分の子どものことを思い浮かべながら言ってるんですけど。それがやっぱり、先生が言われるように今こういう状況になったときに、あの親の思いはそんなぐらいの思いか、弱い思いなのかみたいな、一つのつながりが非常に弱いということで、本人にとっても辛いことですけども、地域にとっても辛いことだというふうに思って、これからはやっぱり、いろんな多様な人たちが一緒に生きていかなきゃいけないので、そういう繋がりを大切にするような人が育っていくのが大事、そういう人が育つ地域です、そういう人が育つ町ですよというふうなことも大事なんじゃないかなと思うんですね。

川田総務課長 あまり自分の意見は、委員さんじゃないのであれなんですけど、ちょっと聞いてみたいのは、この検討委員会って公開される、地元の方っていうのは聞きに来られたりとか来られますか。

宮地委員 結構おられます。前は議員さんも何人か来てましたね。地元の議員さんは来られてましたし、いつも何人かは来られてます。

川田総務課長 先ほどご意見いろいろお聞きして、やっぱり地域の方の意識とかマインドとかがそういった方向に向かないと、どうしても動いていかないというところなので、人が一杯見に来るような会になっていけばいいなというふうに、自分のほうは思ったところです。

宮地委員 事務局とも打ち合わせしたんですが、いつもこの会議室でやるのではなくて、今度は実際物部の現地を視察しますし、それから、場合によっては大栃で検討委員会を開いて、もうちょっと地元の人にも来てもらったりしたらどうかなって思ったりしていますね。

いろいろ作戦を立てながら、やっぱり地元がしっかり、やる気になっていただくような、そういう仕掛けをしていかなければならないかなと思います。

ちょっと構いませんか、私的な話になって申し訳ないんですが。
私学校の教員になって、昭和47年に採用になって別府小学校に赴任をしたんです。2年間おって、次に鏡野中に来たんですけど。その時に教員住宅にみんなおりますので、道が酷い状態ですから帰れませんので、若い先生ばかりだったんですけど、時間がある時に実は別府峡に行って、枝に輪をつけてウナギを取ったことがあるんですよ。別府峡の6月頃でしたか、肩まで入ったらもう10分もおれないですよ。ところが、我々物部川でも下のほうは知ってますけど、あの冷たさは経験がないんですよ、それはもう震え上がって、それでもウナギが捕れたんです、こんな大きなウナギが2本も捕れて、学校へ持って行ったら当時の校長さんが、まだ勤務時間やったんですけど、4時ぐらいですけど、かば焼きにしちやおって皿持って来いって、子どもたちと一緒に見てるわけですよ。子どもたちも僕らも捕ってきたってアメゴを持ってきて、そんな自然が一杯ですから、勿論いい時代であったんですけど、やっぱり子どもたちにもああいう体験が、今物部できるんですよ。だから、観光地の別府峡の谷に入ってウナギ捕るっていう発想ないんですけど、私らそういうことをやったんですよ。

だから、ああいういろんな自然体験を一杯子どもたちにさせて、特に都会の子どもたちにさせてあげたいですね。

ごめんなさい。私的な話になってしまったんですけど、それは素晴らしかったですね、ただ5分も入っておれませんでした。

川田総務課長 いろいろご意見いただいてますが、その他ご意見、ご感想等ありませんか。

時久教育長 この後検討委員会も続けていきますし、検討委員会と今度は学校のコミュニティスクールの運営協議会を結んでやりますし、それから、今回は検討委員会をするときに学校の先生方が、検討委員会は夜の会ですけど本当にたくさん来て、この地域のことを話す場に先生が来るというのは余り無かったんですけど、それもあるし、議員さんもおいでるし、町の人もいるし、これがどんどん盛り上がって行って、本当にみんなの動きになると嬉しいなと思っていますので、また報告をさせていただきながら、いい方向へ進めていきたいと思います。

いろいろまたご意見いただいたり、ご協力を得ないといけないことがたくさんあると思いますけど、また。

宮地委員 何回も会を重ねて、一定の方向性が見え出した頃、ひょっとしたら市長さんにご相談をいただきたい部分ができるかもしれません。何にも無いずつ来ていただいても意味がありませんので、検討委員会としては、一定の方向性が見えてきちゅうところで、ご意見をいただいたらと思っています。

法光院市長 学校だけを考えるとなかなか難しい、やっぱり、かと言って全体を考えて、これも更に難しい課題になるわけですが、ただ、今は学校の関係も部分だけでなしに、地域をやっぱり元気にしなきゃいけないねっていうところがあって、集落活動センターを立ち上げんといかんという、議員さんもその中に加わってやろうという機運になってきていますので、そういう状況のある物部にとっての教育を考えると、少し違って来た部分もあるかもしれません。また、ちょうど大栃の中心のところにバス停があって、JR四国だったところが路線が無くて後退したように見えますけども、JRのほうからは駅舎も土地も全部寄付していただきましたので、その場所も使えるような形で、消防の屯所なんかも整備をしなきゃいけないことになっています。もう立派な鉄骨がありますので、それを使えばできます。集落活動センターもその駅舎の中にやろうと思えばできます。ですから、みんな少しそういうところに気持ちも行っていくんじゃないかなと思いますし、今言った光のことについても、いよいよ秋には具体的になってきますし、県とも連携しながら、そういう企業と言いますか小さなオフィスを持ちたいというような人たちと、我々がどっかで接点を作ってくださいねっていうお願いしているので、そういうところも出てくるので、そういう

ところをご案内をしたりすることも今後出てくると思いますので、並行してこの学校をどうやっていこうか、元気にしていこうか、数字だけ見ると大変厳しいですけども、我々に今知り得ない数字が出てくる可能性だってありますので、そういう点で積極的に議論を進めていっていただきたいと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。

川田総務課長 それでは、1 番目の議題についてはいろいろご意見いただきましたので、また今後それぞれで検討していただいて、またいろんな報告なりをお聞きして、またそれに対して、皆さんのご意見もいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、2 番目の議題のほうに移らせていただきたいと思います。2 番目は、片地小学校特認校制度導入の検討についてです。

まず、説明のほうをお願いいたします。

明石主監 それでは、1 枚ものの裏表の資料を事前に送らせていただいておりますので、そちらを中心にご説明をさせていただきたいと思います。

この片地小学校特認校制度に関しましては、いわゆるコミュニティスクールの学校運営協議会の中で、片地小学校の現状がこの資料にありますけれども、こういった小規模化に向けて、現在学校の児童生徒の人数が減っているという現状の中で、校長のほうから出された案が発端となっていると聞いております。

まず、片地小学校の児童数の現状及び今後の推移でございますが、本年度は通常学級 5、特別支援 2 の合計 7 学級で、全校児童が 55 名となっております。今後小学校第 1 学年に入学する推計児童数としましては、この 2 番目の表にあります平成 3 年度は 9 名、そして 8 年度に関しましては 12 名という形で、一定増減はありますけれども、10 名程度の方が入学する予定にはなっております。

そして、今後そのことを踏まえまして、全校児童数の推移としましては、3 年度は 51 名、そして 4 年度は 47 名というふうな形で、50 名程度の全校児童数として推移していくのではないかと考えられております。

こういったことを踏まえまして、小規模化に伴う今後の課題といたしまして、現在は 1・2 年生が複式学級になっておりますけれども、複式学級に伴う児童数の減少で、単学級のほうが良いということで校区外への転出が予想されます。現在も 3 家庭、4 名の方が近隣の楠目小学校であったり、山田小学校のほうに校区外申請をされて、出ているというのが現状でございます。

また、豊かな学びの機会を保障することができないということで、具体的に複式学級に伴う授業構成上の問題であったり、片地小学校は隣接します工科大学の関係もあり、理科学習等の研究校でもありますけれども、理科学習等の実験・

体験学習の困難性が予想されます。また、学校規模の縮小に伴うそれぞれの教育活動の制限の拡大、集団活動の困難性というものが今後の課題として考えられるものです。そういったことを解消するために、特認校という制度を活用してはどうかということが議題に上がったわけでございます。

主に特認校と言いますのは、小規模特認校ということが主でございます。右側の一番上にありますような、それぞれの学校固有の環境を活用して、それぞれの子どもたちが明るく伸び伸びとした教育活動を希望する者が、一定の条件のもとに校区外から入学（転学）を認められる制度でございます。

右側の下にもありますけれども、県内では4市、11校が、今現在では特認校制度の実施をしております。

特認校におけるメリット・デメリットがやはりございまして、メリットとしましてはそこにあります4点、小さな集団で過ごすことで人間関係が固定化しますけれども、他からの流入によりまして、人間関係の再構築が図られ、学級や学校の活性化が行われるのではないかと。それから、小規模校であることで、学習指導や生活指導等においてきめ細やかな指導が行える。そして、地域や保護者との連携により、地域の特性を活かした特色ある教育活動を行うことができる。それと、選択を認めることで、保護者や児童生徒の希望に沿うことができるというふうなメリットが考えられます。

またデメリットも逆にありまして、ここにありますような、多くの希望者は望めないというのがやはりあります。基本的には学校規模等の適正化を図ることは難しい。クラス替えができていない。これは現状でございますけれども、通学区域が広範囲になるため、児童生徒の通学の負担が発生する。校区外から通学している子どもにとっては、自分の住んでいる地域での友人関係が希薄になる。こういったことがデメリットとして考えられます。

また、行政としての条件整備といたしましては、通学区域に関する制度の見直し等が必要になるのではないかと考えます。また、スクールバス等の運用による運用資金の関係。そしてまた、周知・広報といったものが、今後実施する上では条件整備として必要になります。

先ほどお話ししましたように、県内では4市、11校が特認校制度を実施しており、近くで言いますと、香南市では吉川小学校、南国市では奈路・白木谷小学校があります。来年度から香南中学校も予定をしていると聞いております。

そして、裏面にありますけれども、もしこういった形で特認校に向けて制度の整備をすることになりますと、タイムスケジュールという形でこの裏面のほうには書かせていただいておりますが、それに向けてそれぞれ事前に検討、そして準備をしていく必要があると考えております。

以上でございます。

川田総務課長

ありがとうございました。

特認校についての検討、それから、その状況によつてのタイムスケジュールについてご説明をいただきました。

委員の皆さん、それぞれご意見等をお願いしたいと思いますが、どうぞ。

浜田委員

工科大の近くにある小学校ですから、多くの方に来ていただきたいのが本心です。一緒にいろいろやりますので、いい小学校であるということも自他共認めておると思います。

本来言うと、楠目小学校は人が増えて教室が足りない、けど1キロもないと思いますけど、片地小学校は複式学級になって、保育園も今は園児が少ない、まあ途中で増えるんですけど少ない状態なので、川を挟んで大変違うということで、ほんまは都市計画法に基づいた区域割、市街化調整区域の関係で、これいつも言ってることなんですけど、これを取っ払ってくれんかというのはずっと、当然市長も分かった上で、地元ですし、なかなか難しいというのは分かっています。

まあ一つの解として特認という、本来なら教育委員会が校区を認めたものだけ知ってるわけですけど、全部に開かれた形での募集というものはできないのか。だから、せつかくこういう良い小学校があるのに、こういう形になっているという部分は、やっぱり学校のほうもかなり自信があるんだと思います、地域に子どもが来たらそれなりにできるということ、それが無かったら特認校にしてくれということはなかなか言えないので、是非進めていただきたいのと、併せて都市計画法の区域、これもお願いしたいのと。特に農地を守らないかん部分があるんですけど、明治とか山田北部みたいに圃場整備、県営でやった部分じゃないので、農地もだんだん高齢化して少なくなってますし、宮ノ口なんか子どもがいなくなってる状態なので、是非それも併せて考えて、工科大も片地小学校とは更に綿密な連携を取っていきたいと思ってますので、よろしくお願いします。

宮地委員

イメージとしては何かまあまあ、素人目で楠目小は人気があるんですよ、何故か楠目小学校なんです。ところが、我々こう専門的に見てみると、楠目小に勝るとも劣らんような素晴らしい教育を展開している片地小学校なんですよ。まあ仮に私が保護者やったら、子どもも少ないし、手厚く教育が受けられるというのはやっぱり片地小ですよ、そういうので選択するんですけど。どうしてもやっぱり、何かがネックになっている。例えば佐岡の保護者が、子どもさんを楠目小に行かせているんですよ。仕事の関係、通勤の関係で楠目小に行かす。本来やったら片地小学校、それが楠目小に行く。だから益々子どもたちが少なくなってきた、加えて若い方が段々少なくなってきた、だからそこへ入ってきて家

を建てようと思っても建てられないと。だから非常にジレンマがあるんですよ。だから多分地元の方が、やっぱりそういったことを十分承知の上で、もう何とかしたいかなということで、特認校という希望が出てきてると思うんですけど、もっともなことやと思うんです。

都市計画の部分は、市長ももう十分お分かりのはずやということですが、何かそこが工夫してできるのであれば、特認校制度は必要なくなるわけで、どうしたらいいんでしょうねというのが実際のところです。

それからもう一つは、当初教育長も今触れましたけれど、舟入小学校も段々減っています。ここは楠目小学校の関係で減ってます。何故なら楠目小学校に校区が近いんですよ、八王子とか小島辺りがですね。ですから、やっぱり近いほうへ行ってしまうので、舟入小学校も校区として減ってくるという状況。

それから、香長小学校は、あの当時繁藤小も香長小へ行ったんですが、やはり子どもたちが少ない。ですから一番悩むのは、片地小学校の気持ちは分かるんだけど、じゃあ、香長小や舟入小はどう考えるのっていうことになってくるとですね、非常に厳しい状況になると、悩みますね。事情が分かるだけに悩ましいところです。

川田総務課長　都市計画の問題は以前から出て、それがどうにもならんということで特認校という選択の話が出てきたと思うので、今都市計画マスタープランの策定をされてるところなんですけれども、恐らくそこでも緩和、要件を取っ払うみたいなことはなかなか難しいという状況だと思いますので、ご説明をいただいた、これに向けての話になってくかなと自分のほうは思うところなんですけど。

特認校について、ご意見とか、そういったこととかございませんか。

時久教育長　そうですね。ずっと言われ続けてきて、議会にもやっぱり出てきたのは都市計画の関係なんですけれど、一番最初の子どもの人数を見ていただいたときに、3年度から順番に4年度、5年度、入学する子どもたちの数がまあまあで、前のような状況に戻ってくるというのはあるんですね。ただ、これからずっと今の1年生、2年生、3年生、それから、3年度に入る9人っていうここの振り分けが、複式学級になる人数というのが、小学校の1・2年生は10人です。それから、11人になったら単式でいくんですけどという。だから、そのままいったら入ってくる人数が9人なので大丈夫なんですけど、ただ今の1年生、2年生、3年生の組み合わせは、2年生以上が16人までが複式だから、ここの3学年分は、ずっとどこかが複式になりながら、卒業までいってしまうことにはなっています。学校としたら、子どもたちが入ってきてくれて、その人数を超すようになって、やっぱり単式でやっていきたいなという気持ちはあります。そんな中での話

です。

特認校を南国市なんかもやっていますけど、例えば炭焼きだったり、地域のいろんな体験活動だったりいっぱいしながら、南国市の町の中でなかなか学べないけどそこやったらというような、希望する子どもたちがいて、元気にやってるということがあります。

片地小は、工科大と共にいける学校なので、特色は大有りなんですけれど、そこを何とかもうちょっと浮上させてみたいというところがあります。

特色で言えば、コミュニティスクールを一番最初に作った学校でして、地域との連携は非常に良い、教員も素晴らしい、それから工科大との連携は、これは本当に工科大の土地の中にあるみたいにそこにあるので、凄く進んでいて、特に外国の方、留学生との交流なんかは、他のところはなかなか真似できないです。

それから、随分前からCSTという理科教員育成の学校なので、必ずそこに理科を勉強している先生がいて、理科の拠点校なのです。県が指定している拠点校なので、いつまでも拠点校で、理科の研究を先生方はするし、子どもたちも本当に探究的な学びがどんどん起こっていつている学校です。

それから、特色はあるし、今、子どもたちの学校満足度が100%です。100%を今3年目を行ってまして、本当に子どもたちは学校が大好きです。

それから、今片地小学校に区域外から行ってる子どもたちは、少し事情のある子どもたちもいるのですが、行ったその日から学校へ溶け込んで、非常に良い状態で卒業していくとても温かい学校なので、特認校については香長小とか舟入小とか、似たような規模の学校のところとの関係性っていうのはありますが、この2つは今のところぐっと減るというのが、そんなに無いんだけど、ただ今香長小学校の5年生が5人で、ただ相手になる組み合わせの学級が、まだ人数が要るのでまたぎりぎりになっています。

おうちの人の仕事の関係で、職場に近い学校へ行くという傾向があって、だから楠目小のほうから逆に片地小へ逆に行って職場に、どっか西のほうに行くというルートをおうちの方が選ばないということは、香長小は逆に、小さい学校が良くて、新改保育園に行ってその流れで香長小へ行ったりという子どももいます。それは特別な事情がないと許可にならないので、どっちか言うと少し特別な支援が必要な子どもたちが多くなるということはあるんですけど。そういう感じなんです。

だから、委員会としては片地小学校を特認校に早くしてあげたら特色も出てくるし、そう思うんですけど、他との関係性でちょっと悩んでいるところです。

法光院市長

他との関係というのは。

時久教育長 香長小とか。

法光院市長 なるほど。

宮地委員 事務局に問いたいんですが、例えば奈路小学校、奈路小学校は特認校にしてどれくらい子ども増えてますかね。そういうのはデータは無いですか。

明石主監 数的にかっちりとしたものは無いんですけど、南国市は南国市特有の大篠小学校の大規模化の解消という部分もありますので、そういった部分があつての特認校制度というふうなことも聞いておりますので、人数が特認校になったので凄く増えたということではないですが、やはり小規模の学校ということと併せて、それぞれの特色がありますので、そういったものをやはり保護者の方が、こちらを希望されてというふうに聞いてはおります。

宮地委員 奈路小学校はかなり地域を挙げて…。

明石主監 そうですね、白木谷小学校が5名から7名が基本というふうには書いてありますね、そんなに多くはないですね。

法光院市長 片地小学校が特認校になると、そして特徴のある教育をやっていこうと、今の雰囲気とか理科とかいう話でしたけど、具体的にやろうとしている特色のある学校っていうのは、どんなものを目指しているんです。

時久教育長 私のほうから。いわゆる小学校教育で力を付けないといけないという部分は、どの学校でもやっているんですね。

ただ、さっき大柝の話があつたように、大規模、小規模あると、小規模はデコボコしたりいろいろするので、だからそういう比較で物を見られる傾向があるので、教育委員会としては、全部の学校が地域に根差した特色を持った学校として、作りこみをしてきています。中身のレベル的にはどこも凄くいいんですけど、例えば舟入小やったら道德の推進校ということで、何年もやってそこが引っ張ってくれてるっていうような学校だったり、それから、山田小学校だったら、読みを鍛えるとか、新しい学習指導の在り方の研究をして、そこはいろんな学級の在り方で引っ張ってくれてる学校とか、香長小学校だったら、もう環境教育とかクールチョイスとか、特色を出しながら行ってるんです。片地小学校の特色は何かと言うと、このコミュニティスクールがとにかく早くて、協力が凄いですので、地域との連携ということと、それからやっぱり工科大との関係で理科教

育、それから、外国語というか交流、工科大との連携というところに大きな位置付けがあるということです。

法光院市長 そこはそこで実際はやっているんですよっていうことだけど、特認校として今後アピールしていくために、こういうことを計画してますよっていうところを。

時久教育長 特色は今でもあるけど、じゃあそれが外に出ているかというは見えない。よほど、片地小へ行きたいというようなことがなかったら、特認校って開いても、来ないかもしれない。子どもの満足度100%っていうのはあるんですけど、例えば理科教育ってどこもやっているわけなので、理科の中で何が突出してるんですかっていうことです。教育委員会から見たら、片地の子どもは、休み時間も授業中も、物事を見る科学の目って凄く育っているんで、いつも何かを求めて探したり考えたりしているんです。でも、もっと何か、例えば工科大学と繋がって、わからなかったら工科大へ走る子どもたちでありたい。他の学校も工科大と連携しているわけなので、困ったら教授のところへ駆け込むぐらいのことをやって、そういうイメージもちゃんと外に伝わるようにならないといけない。今、片地小を求めて行ってる子どもは、本当に学校に行けなくなったりとか、それから、集団の大きいところではなかなかできないとか、何かの事情があります。外国の子どもさんとか、集団の中でちょっとしんどくなりそうな子どもたちは、片地小に行ったその日から元気になるということもあります。

けど、そういう子どもたちは勿論なんですけど、いろんな子どもたちが片地の教育を求めて行くというぐらいの特色がないと、いかんでしょねという話はしてます。

法光院市長 いろんな立地条件で言うと特色のある場所にあるので、特色がいろいろ出せると思うんよね。すぐそばには工科大の国際交流会館もあるようなもので、そこには海外から学びに来たりとか、それこそ先生もおいでたりとか、いう人たちもいるし、それをどういうふうにアピールをして、本当に特認校としての効果を上げていくかっていうところをもう少しこう、我々のほうもなるほどというふうな思いで見れるような形にさせていただけたら、そうなれば香長小にしたって舟入小にしたって、今の特徴だけでなしに、もっともっとアピールができるようなやり方でやっていくことが大事だなと、逆に言ったら刺激になるっていうか、影響して困るというじゃなしに、刺激になるということになるんじゃないかと思うけどね。

ただ、その特認校でどういう戦略を持ってやるのかっていうところをもっと

具体的にしていだけたら、それはやっぱりこれからそこを知る人たちですので、地域の人たちじゃないですから、どれだけ認知をさせるかというところもあるので、こういうのをやりますよって言うだけではちょっと伝わり切らない。それを素晴らしいと思ったりとか、ああ、あそこだったらうちの子どもたち喜んでんじゃないかなとか、そういう思いを持ってもらってそういう選択をする、それこそ南国市だけでなく香美市だって、中心の学校はやっぱりいろんな課題、生徒がいて課題もあるわけで、少しそういう特徴のある教育を求めていく子どももオーケーですよということにしてあげれば、お互いがウインウインっていう状況になるんじゃないかなって思ってます。

時久教育長 私、他の学校との関係性と言ったのは、その平等性になるところの観点では言ってるんですけど、どっちか言うと、この片地小学校を特認校という形で出発していったら、また人の動きが変わってくるかもしれないし、考え方も変わるかもしれないので、それはそれで凄く効果がありそうな気がするんです。南国市に一番最初に特認校の話聞きに行ったときに、「教育委員会が勧めて教育委員会が先作るということはしません」って南国市は言いました。地域の方々が盛り上がって、みんなでこの学校を作るっていうところに機運が高まって、地域が言ってきた要望に対して教育委員会が決定してきたそうです。そんな形でできる整備もしていったそうです。何年か経って、順番に今2校できてるということです。

香美市の場合も、片地の今の盛り上がりは、コミュニティスクールの会に私たちが行ったらもうがらがら言われてきた状況で、何で早ようしてくれないかということなんです。今は区域外申請をして、手続きを踏んでから、本当は行かれんけどみたいな感じで片地小へ行っている子どももいるんですよ。けど校区が無い特認校ということであれば、大手を振って行けるので、小さい特色のある学校で元気に活動できる子どもたちはいると思うんですけど。

逆に言えば楠目小学校なんかが、あちこちの子どもを受け取り過ぎて、校区が非常に広がってしまっていて困ってる状況もあったりするので、だから他の小さい学校がやっぱりそうやって盛り上がってきたら、それこそいいかなと思っています。

宮地委員 複式解消まで行けばいいですけどね。

浜田委員 けど、教育委員会の中では学校の特色はそれぞれだというのは把握してできているんで、やっぱり外に向けて、香美市の教育はこういうふうな形で進んでいることを知らせるきっかけになるんじゃないかと思うんですよ、それぞれの地域で。まあ子どもたちが学校へ行きゆう間は学校へ目が向くけど、出て行くと

もうあんまり目が向いてこないで、教育委員会がなんぼ頑張っても、ちゃんと説明をしていかないと。日常的からこういうふうに行っているのを広く広報したり、いろいろできるということは、地域にとってもいいし、学校にとっても大変大事なことやないかと思うし、スタッフというか、教員にとってもやりがいにつながっていくんじゃないかなと思うんです。

川田総務課長 一番、結局各学校が特色ある教育を全てやられている中で、特認校に向けてより特色のあるアピールが必要ということだろうと思うんですけど。

僕なんかは外から見ると、例えば大宮小学校、バカロレアっていう、何か凄くだんだんだんだんイメージが付いてきて、けどじゃあ他の学校ってどういう特色があるって、あんましイメージにぱっと沸かないんですけど、片地小はそれこそ工科大に近いっていうぐらいしか、あんまし特色っていうのも詳しくは知らないっていうのがあって、やはり市長が言われたように、外へもう絶えずアピール、ここの学校はこれですよっていうのを植え付けていくようなのも必要なのかなって、自分もそんなふうに思いましたね。

何かあんまり知らない、多分僕も知らないということは、地域の人もあんまり知らないという。

宮地委員 関係者は分かってますけどね。

川田総務課長 そうですね。

宮地委員 外向けてやっぱりアピールがね、できてないんですよ。

法光院市長 やっぱり理科で凄いつてなると、授業を増やせとかそんなわけにはいかんけども、やっぱり頑張っている子どもは指導をしたら、随分と自主学習とか研究とか結構大変な、こんなことまでやるんかえっていうようなものがありますよね。もの凄い、子どもがこんなことまで言うんかえ、ほんとにチコちゃんみたいな人になってしまう。そういうような子が年に1回、2回町の中央で発表会をやると、他の小学校の人でも来てもかまんのよという形でやると、本当に誇らしそうにやるのがもう目に見えるけど、やっぱりそれを聞いている子どもたちも刺激されると思うんですよ。得意の分野の発表の場所をやっぱり保証してやるかっていう、それが特徴ですよ。だから、こっちは道徳でやってる、それをやっぱり発表さす、聞かせるっていうのをやっぱり、あつ、凄い、こいつらはというところをお互いが刺激し合うようなところ、それから、選択ができるような状況を作っていくのも大事なんじゃないかなと思うのよ、町の中で。

それは町の外からもそういうのを聞きつけると、とてもやないけど、うちの子はもうほんと虫を一杯持ってきて困る子なんじゃ、保育のときから言っても虫のことはやたらこだわるというような子どもも一杯おると思うので、そういう子どもたちを、そういう理科を特色にしているような学校に行かせてやりたいとか、それで大学の先生の話なんかも聞いたりなんかできるところらしいよみたいな話になると、やっぱりそれはもう特徴があるというように注目されていくんじゃないかと思うんですね。

小さい学校ほどそういうのを、特徴を出そうと思ったら、むしろ特徴が出しやすいっていうか、集中してこういうものが出てきやすくてアピールしやすいんじゃないかなと思うので、そういうところへ来ませんかというのを最後に、一緒に勉強しませんかみたいなのがあってもいいんじゃないかと思うんですね。

浜田委員 実際、理科教育で片地小が水族館を設けてるんですけど、水族館というか自分たちで川から魚を捕ってきて、それで食事会があって行ったときに、おんちゃん、ちょっと来て来て、これ何々って全部説明して、卵が産まれて何匹になったとか、やっぱりそういうことがあると、子どもたち興味がどんどんどんどん深く入っていくので、実際にこう写真で見ただけじゃなくて、実際に触れて育ててやるから、ああ、これだと思って。

宮地委員 工科大と連携して将来のドクターを目指します、そういう小学校ですってアピールしたら面白いですね。

川田総務課長 まだまだご意見があるとは思いますが、議題がもう1個ありますので、特認校については、またいろいろアピールの仕方とか工夫していただいて、それに向けて検討していただけたらと思うところです。

それでは、3番目の議題のほうに移らせていただきたいと思います。

I C T教育について（G I G Aスクール構想）、これの説明をお願いします。

事務局 G I G Aスクール構想に関しましては、私、大峯のほうから説明させていただきます。

お配りしている資料、こちらになりますが、このG I G Aスクール構想の概要については、教育振興計画の推進会議とかでも説明させていただいてますので、今後香美市で行われる事業について、ちょっと今日は説明をさせていただきたいと思います。

5ページ目をめくっていただきまして、香美市G I G Aスクール事業（業務委託5年分）の主な内容（案）というのをお配りしておりますので、そちらをご覧ください。

いただけたらと思います。

香美市のGIGAスクール事業では、Google社のChromebookを採用して、Googleの無償供給ソフト、G Suite for Educationという無料の業者アプリがあります。それを活用した事業を考えております。また、事業を完全な環境のもと確実に推進するため、セキュリティーの対策ソフトであったり、運用に関するサポート契約や必要な研修、教員向けの研修等の実施を想定しております。また、一部タブレットについてはLTE対応タブレットを導入する予定をしております、このLTEタブレットを採用することで、例えばコロナの関係でまた休校措置っていうのが、全校休校というのは余り想定してないんですけど、学校ごとに休校っていうのはまああり得る話ですので、そういった場合、家庭のWi-Fi環境・整備状況が揃ってない家庭に対しても、LTEタブレットを貸し出すことで学びの保証が行われる。またそれ以外のとき、緊急時以外については、香美市が実践してきました探究的な学習と学校外での活動でも利用できるというところで、事業を今作っているところです。

こちらのほうですが、それに係る予算としては、年換算で約5,000万円程度を見込んでおります。どうしても今年度はタブレットを全台数揃えるということで金額的に大分かかってくるんですが、次年度以降は1,500万円程度に抑え込みまして、5年間でトータルで5で割って、年間5,000万円程度で抑えたいと。現在、中学校生徒の3分の1、小学校生徒の6分の1に当たるタブレットっていうのを学習の関係で使ってますが、それをリースで運用しております、その年間の経費っていうのが6,000万円程度支出しております。GIGAスクールにおいては、必要とされるサービスを絞り込みをしまして、必要経費については、年間5,000万円程度で抑えたいと考えてます。

香美市の事業については、当初の予算ではタブレットの購入費だけを計上しておったところですが、先ほど申し上げましたような内容を盛り込んで、9月の議会のほうで補正予算を計上する予定です。実施に当たっては、プロポーザル方式で実施することを想定しています。このGIGAスクール事業は全国的に全市町村が取り組むことになりますので、1人1台のタブレットというのを運用していくっていうのは、どこの市町村も初めてのことになりますので、恐らく運用に当たってはいろいろな問題点が当然出てくるものと思いますので、そういったところで、香美市においてはプロポーザル方式で業者を選定しまして、その業者とタッグを組んで着実な運用をしていきたいと考えております。

今後のスケジュールですが、9月上旬までにプロポーザルをしまして、10月に業者を選定しまして契約を締結しまして、様々な初期設定というのをした上で、タブレットの納品が2月上旬を予定しておるところです。

簡単になりますが、G I G Aスクールの事業の説明としては以上になります。

川田総務課長 ありがとうございました。G I G Aスクールのことについて、説明が終わりました。皆さん、ご意見、ご質問等あればお願いします。

浜田委員 C h r o m e b o o kにした理由、はっきり言ってC h r o m e b o o kやからG o o g l eになるわけですけど、その理由は何かありますか。

それともう一つ、将来的にタブレットのほうが安いがあるんですけど、パソコンは高いから、要はタイピングとかその他、将来社会人になったときに多分仕事はタブレット、時代は10年過ぎたら分からないけど、今のところやっぱり、パソコンの能力に比べてタブレットはまだ処理するには弱いので、そこら辺をちょっと教えていただければ。

事務局 まず、C h r o m e b o o kを選定した理由ですが、5月にちょっと学校関係者を集めて協議をしてまして、3つのOSがあります、W i n d o w sとG o o g l e社とA p p l e、その3つのOSのうちどれを選ぶかというところで、まず学校側の希望で言うと、処理速度がまず早いというのが一番というところで、W i n d o w s がやはり若干処理速度が他の2社から比べると遅くなるということで、まずそこで、G o o g l eかA p p l eの2社のどちらか選択するっていう話になりました。

あと高知県内のタブレットの採用状況なんですけど、この香美市近郊の市町村に関しては、ほぼC h r o m e b o o kというような状況です。そういったところを考えまして、あとA p p l eについては、更新作業がG o o g l eと比べると若干煩雑になるのではないかなというような業者の意見もありまして、そこら辺のところを総合的に判断しまして、C h r o m e b o o k採用というところなんです。

まあ、何故パソコンじゃなくてタブレットかというところですけど、そこは国のほうもタブレットで整備するというのは、やはり予算的なところではあると思うんです。やはりパソコンと比べると、できる機能っていうのは大分絞り込まれますので、絞り込んで分、使う分には処理が早いとかいうメリットもあるというところで、小中で教育で使うというところにはまずタブレットで慣れさせていただいて、徐々にパソコンもというようなところで実施するというのが、大きな流れになってくるのかなと思っています。

浜田委員 できれば職員会とかそういうがも事前に上げていただければ、働き方改革やないけど、これ1つの原因になってると思うんですけど、事前に資料を上げて、

職員会はまだ短時間で済ますと、事前に見てくださいと、長々しないというような形でC h r o m e b o o k使われていると思うんですけど、まあいろんな機能があるんですけど、是非生徒だけでなくて教員のほうもお願いしたいと。

事務局 香美市では、生徒だけではなくて教員、校長先生だったり教頭先生だったり授業を持たない方、事務職員とかにも導入する予定をしていますので、学習だけではなくて、それ以外の活動でも活用していただいて、それこそ働き方改革みたいなところで活用していただくということも勧めていただけたらと思っています。

川田総務課長 その他ご意見ございませんか。
どうぞ。

西委員 タブレットの台数、多分きっと日本全国が発注をかけるような形になったときに、確実に確保はできるんですか、台数的なもの。

事務局 その点は教育委員会としましても、出入りの業者であつたり、幾つか聞き取りをしています。

1つの業者が言うには、高知県でタブレットの発注が多すぎて準備できないみたいなことになったら、他の県でもっと発注が多いところもありますので、事前に国のほうから各供給先のほうには協力依頼をかけておりますので、高知県に限って言えば問題ないと思います。

このプラン、今回ご説明さしていただいたプランについても、教育委員会だけで考えたら当然なくて、協力してくれる業者がおりまして、そこいろいろアドバイスをいただきながら作っております。その業者が示してるスケジュールっていうのが、契約締結から4カ月あれば納入できるという話なので、このスケジュールで行けば、本当にちょっともうスケジュール的にはなかなかタイトになってまして、ぎりぎりのところではあるんですけど、9月までにプロポーザルやれば、年度内にはタブレットは導入できるというふうに考えております。

浜田委員 もう一つ構いませんか。

多分業者さんが介在するので、なかなか大変やからみんな目の色を、そんなに高知県は多くない、地元業者ですかね、一応。多くないので、全ての学校がやるとしたら大変ですが。それほど人員もいないので、プロポーザルやるときは業者さんが言うことを丸呑みするんやなくて、誰ぞ専門家を契約の内容とか是非入れて、多分の市の方は契約書いうても、その内容とか情報系のあれが、それほど

とは言われんけど、やっぱりそれなりのことがあるので、そこはお願いしたいと思います。

事務局 プロポーザルを予定しておりますので、また工科大のほうにもご協力いただきたいと思ってまして、できましたら中村直人先生とかに入っていただけたらと思います。

浜田委員 やっぱり情報系のちゃんとした先生がえいし、もしあれやったら情報システム科みたいな職員も、S Eとかも持ってますから、そういうがでやっているの、単なる知識ということやなくて、実際の動きとかそういう方のほうがいいと思う。先生がなかなか難しかったら6人共システム管理も全部やってるし、S Eさん出身もほとんど。

事務局 このプロポーザルの中身について、専門知識を持っている方にももちろん意見をいただいた上で、作りたいと考えております。

川田総務課長 ご意見とかございませんか。大丈夫ですか。
僕は意見言う立場じゃないんですけど、ちょっと聞きたいのは、今、例えば物部なんかは1人1台とかって今現在あるじゃないですか。あれってどうなるんですか、今使いゆうタブレットとかってというのは。

事務局 リースで導入していますので、リース期限が過ぎましたら機器自体引き上げになりますので、期限が切れ次第、現在使っているあれはW i n d o w s のタブレットなんですけど、それはもう更新をしないということになります。
一方、G I G Aスクールについては、今後5年間でG o o g l eのC h r o m e b o o kで行うということになります。

川田総務課長 これを使う先生のスキルというか、それはそのO Sが変わることによって全然問題は出てないですか。

事務局 そこで研修というのが必要になるというところで、研修費用も予算計上します。あと、G o o g l e社が無償の研修というのを用意してますので、それと含めて、選定した業者が段取ってくれる研修と併せて、タブレットの活用に関する知識が多分身に付くように、学校の先生には研修を受けていただくということになります。

浜田委員

もう一ついいですか、事務局やなしに市長に。

結果的にこういうふうにはGIGAスクールとかICTを使った部分で、タブレットとかパソコンは、あくまでもソフトを含めてツールなので、手段なので、それをマネジメントする職員なりがこれからは多分絶対必要になる、それは足りないんですね全国的に。

だから使えるけども単に使うだけで、業者さんから聞いたりいろいろ、それをどうやってより良い形に持っていくかという行政とか教育の中で、そういう職員も是非育成していただかないと。それは多分、行政間の自治体の格差になってくると思う、それは間違いないと思う。

機械はみんな企業が構えますから、そんなにはあれやけど、それをどうやって使って、管理、メンテナンスとして、その市政のためにどういうふうには有効に使うかということを政策的に考えていく。

法光院市長

そういう先導的な方を入れてやれば、教育をする側のほうとしたらその中にいろんなものが追い込めて、より分かりやすい環境ができることになりますので、その辺りは、今回の場合はお示ししたのは、教員向けのタブレットの活用研修とか応用編とかいう形で、教師だけに任せてできるものかどうか、そこがちょっと課題だろうと思いますので、それに入れるところについても聞いていただいたりとか、それからまた、国のほうがどこまで求めているのか、そこも大事だと思うので、あんまりこれもできるあれもできるよって、今度はそちらのほうの技術的な人が余り活躍しすぎても、実は教師のほうでちょっとそこまで求めているとかいうこともあるし、なかなか難しいところも、なかなか熱心なのは結構やけども、決してこれが主になる訳じゃないです。

浜田委員

主になる訳やないけど、今からの子どもたちはこういうものを使うので、その考え方も今までの考え方やなくて、ソフトの使い方、いろんな使い方を自分たちで組み、探究的に行くという形、これがマネジメントなので、だからそういう人材をできるだけ導いていける人材を多く持つてる市町村が強くなるということは、もうそういうふうには、特にコロナの関係でもろに出てきた。

法光院市長

コロナの関係でいろんなことが考えられるようになりますので、やっぱり活用できるものをいかに上手に活用できるか、そのあたりは非常に、地域間でも格差が出てくるし、その辺りは本当に大事だと思いますね。

我々も最近はいろんな買い物をしても、レジ袋は要るんですかって聞かれて、ああそうだ忘れてるわというような、それから、カードは無いんですかなんて言

われて、ああ無いですって言うと、ポイント付きませんねみたいな顔で見られるので、やっぱり時代が求めているものできちっとやっておかないと、それぞれ個人も格差が付くし地域も格差が付いてくるということがあるので、その辺りはもう苦手な人はしょうがないけども、得意な人がいれば得意な人に活躍してもらったりとか、そういう人を育てていくということは、全体として必要なことだと思います。

多分子どもたちはタブレットを渡したら、とんでもなく探究していくと思います。とてもとても思いも付かなかったところまで行って、逆に教える側が教えたりするようなことになると思います。

もうテレビの画面を観てても、こんなものがどうしてテレビの画面から出てくるんだろうと思うぐらい、子どもたちは使ってますので。

浜田委員 最近のY o u T u b e でいろんなことが習えますので、だから子供がこれを習いたい言うたら、取ってきて押せば、教員以上に専門家が、自分もやったら何ぼでも出てくる。

法光院市長 保育の子どもがつつくので、ホームを探してやったら、ほとんどもう子どもが喜ぶようなものしかもう出ません。

浜田委員 反面怖いもんがあるね。

法光院市長 怖い。

浜田委員 どこへ飛んで行くやろうと。

川田総務課長 それでは、ご意見等ございませんか、大丈夫ですか。
それでは、議題3も終わりたいと思います。
議題は全て終了したわけですけども、その他にご意見等ありましたらお願いしたいと思いますが。ございませんか。
それでは、無いようですので、いろいろ貴重なご意見もいただきましたので、今後はまたそれも含めて、それぞれで検討していきたいと思いますので、本日はどうもありがとうございました。
これで、令和2年度第1回香美市総合教育会議を終わらせていただきます。どうもお疲れ様でした。

会議の経過を記載して相違ないことを証するためここに署名する。

香 美 市 長 _____

香 美 市 教 育 長 _____